

2012年7月2日

## 電通大・玉川大・NICT 合同チーム"eR@sers" RoboCup2012 世界大会準優勝

6月18日から6月24日までメキシコで開催された「ロボカップ世界大会」で電気通信大学、玉川大・NICTの合同チームである「eR@sers」が準優勝を果たしました。(国内の大会では kara@ge++ として電通大のみで参加していますが、国際大会では合同チーム eR@sers として参加しています。)

ロボカップは、人工知能を搭載したロボットが2050年のサッカー・ワールドカップ優勝チームに勝つことを目標としたプロジェクトであり、現在ではサッカーだけでなく、レスキューロボットや家庭用ロボットにも広がりを見せています。今回 eR@sers が準優勝したのは、家庭用ロボットの技術を競う「@ホームリーグ」で、ロボットがリビングルームやキッチンで物探しなどの様々な種目を行い、その性能を競うものです。今年は、世界各国から集まった計18チームによって競われました。



電通大チームメンバー（左）と@ホームリーグ参加者（右）

eR@sers はハードウェアのトラブルもあり 1st ステージこそ 6 位と不振でしたが、その後 2nd ステージで得点を伸ばし、3 位でファイナルに進出しました。ファイナルでは、「Cloud robotics」をテーマに、学習した情報の複数ロボットによる共有やクラウドを利用したロボットの身体拡張といった非常に高度なデモを行い、最終的に準優勝を果たしました。

eR@sers は、2008 年、2010 年の世界大会で優勝、2009 年の世界大会で準優勝し、5 月のジャパンオープンでは 5 連覇（電通大のチーム kara@ge++ として）を達成していたため、世界大会での活躍が期待されましたが、残念ながらドイツのボン大学（Nimbro）におよばず、準優勝となりました。

本大会で全ての競技（タスク）を行ったのは、電気通信大学知能機械工学専攻長井研究室で開発しているヒューマノイドロボット“DiGORO”（だいがろう）で、今回の準優勝により、電気通信大学の技術が非常に優れていることが世界的な舞台上で再度証明されました。



出場したロボット DiGORO (クリーニングタスク中)



レストランタスクに向かう DiGORO (左) とレストランタスク待機中の様子 (右)。実際にガラスの奥に見えるレストランを使って競技 (レストランタスク) が行われました。レストランタスクでは、飲み物などのある場所をその場で憶えて、注文されたものをサーブすることが要求されます。

ロボットのデモなどは、リクエストに応じて行いますので下記へお問い合わせください。

## 取材に関するお問い合わせ先

電気通信大学大学院情報理工学研究科  
准教授 長井隆行

〒182 - 8585

東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

TEL/FAX : 042-443-5203

E-mail : [tnagai@ee.uec.ac.jp](mailto:tnagai@ee.uec.ac.jp)